

立場を越えて医療再建に取り組む「医療志民の会」が誕生します ～4/11 設立シンポジウム/記者懇親会のご案内～

医療現場を建て直したいと志を抱く患者と家族、医療者、保険者、納税者、研究者、ジャーナリストらが集い、**4月11日(土)、「医療志民の会」**(共同代表:大谷貴子/元白血病患者・佐藤章/福島県立医大産科婦人科名誉教授をはじめとし、発起人142名)が発足します。

設立シンポジウムを**4月11日(土)に学術総合センター(東京, 神保町)**にて開催します。シンポジウム終了後に報道関係者の皆様との懇親会を開催予定です。ぜひともご参加頂ければ幸いです。

■「医療志民の会」とは

医療について報道されない日はないほど、医療崩壊が進んでいます。閉塞的な医療の現状を打破するために、「医療志民の会」が発足します。今までは医療をめぐるほとんどの活動は、医療者中心、患者中心でした。本会は、**医療現場を建て直したいとの志を抱く様々な立場の人々が「志民」として議論し連携し協働する場を創造することを目指しています。**

■4月11日設立シンポジウムとは

当シンポジウムでは、「志民」が医療への取り組みを発表します。パネリストとしてご登壇予定なのは、兵庫県立柏原病院の小児科を守る会事務局長であり、丹波地区の医療再生にご尽力された足立智和氏・元白血病患者の立場から、採取骨髄濾過キット在庫不足問題で6万人以上も署名を集められた大谷貴子氏・昨年全国医師連盟を立ち上げられた黒川 衛氏・医療崩壊について誰よりも早くから警鐘を鳴らし続けてこられた虎の門病院泌尿器科部長の小松秀樹氏・千葉県の医療崩壊の状況を憂い様々な提言されている千葉県がんセンター長の竜 宗正氏などの方々です。また、「志民」同士のコミュニケーションを目的とした**特設ブース**を併設いたします。

■「医療志民の会」今後の活動予定

「志民」が議論して生まれる様々な活動・プロジェクトが自律的に動くためのプラットフォームを創ります。いま医療をめぐる国民的議論が真に必要なとされています。当会は医療について学び考え発信する「志民」を全国で募り、「志民」が連携をとりながら周囲の医療問題に対する意識を高めます。活動の一環として、どなたでも参加いただける勉強会や病院見学会などを北海道、関東、関西、九州など、全国各地で開催する予定です。

設立シンポジウム

2009年4月11日(土) 16時～20時(受付・開場 16:00より)

学術総合センター 一橋記念講堂(東京都千代田区一ツ橋2丁目)

プログラム(予定、敬称略)

- ①シンポジウム 17:00～19:30 司会:黒岩祐治(フジテレビ報道局・解説委員)
 - ・開会の辞:佐藤章(福島県立医大産科婦人科・名誉教授)
 - ・共催者の挨拶:尾辻秀久(参議院議員・医療現場の危機打開と再建をめざす国会議員連盟 会長)
 - ・パネルディスカッション「志民発の医療再建～私たちはこの課題をここからこのように取り組んでいく!～」
 - ・閉会の辞:大谷貴子(元白血病患者)
- ②記者懇親会 シンポジウム終了後
 - ・共同代表、パネリストにご質問下さい。
- ③ブース展示・交流会 16:00～20:00
 - ・現在取り組んでいる医療再建協働活動のご紹介

参加費 2,000円(当日、受付にて徴収予定)

パネリスト

足立智和(兵庫県立柏原病院の小児科を守る会事務局長)、大谷貴子(元白血病患者)、大塚勇二(NPO 法人みんなの歯科ネットワーク・副理事長)、神津仁(神津内科クリニック・院長)、黒川衛(全国医師連盟・代表)、小松秀樹(虎の門病院泌尿器科・部長)、崔秉哲(滋賀県立成人病センター放射線治療科・医師)、塩見健三(がんまんクラブ・代表)、竹内麻里子(医師のキャリアパスを考える医学生の手帳)、豊島勝昭(神奈川県立こども医療センター新生児科・医長)、取手涼子(初台リハビリテーション病院・ソーシャルワーカー)、長尾和宏(長尾クリニック・院長)、中田善規(帝京大学麻酔科・教授)、畑中暢代(東京大学・看護師)、福田衣里子(葉害肝炎被害者)、竜宗正(千葉県がんセンター・センター長)

1. 背景趣旨

江戸から明治という時代にかけて、今を生きることで、未来を築き上げた日本人たちの大いなる挑戦がありました。人々は、政治文化経済の鎖国を飛び越え、「明治維新」という新たな時代の『物語』を数多く生み出しました。維新において役を演じた人びとの気持ちの根底には、身分差別によって「自己実現」が疎外されていることへの不満があり、このシンプルで本質的な思いが、黒船来航という前代未聞の危機と重なり合うことで、社会を根底から変革する歴史の流れを生み出したと言えます。その維新から約150年たった平成の時代。今また歴史は繰り返されるかのごとく、当時の幕藩体制と同様に、既存の社会制度は新たな状況に対応する能力を欠いており、未来への展望を切り拓けないままです。

こうした閉塞感の中で、医療に関する領域が特に深刻な状況を抱えています。産婦人科や小児科を担当する医師は激減し、未来を橋渡ししていく命の健全な連なりが危ぶまれています。一方で、勤務医の人たちも科によっては休む暇もなく仕事に追われ、時には患者との揉め事から犯罪者扱いされることも少なくありません。明治維新では「自己“実現”の疎外」が問題の根底にありましたが、平成の時代においては患者にとっても医師にとっても「自己“存在”の否定」という、より根本的な部分がないがしろにされることで、人間の本能とも言うべき「生きる」という基本軸が揺さぶられている状況です。この揺らぎを、明治維新のように社会変革を生み出す力へと繋げていけるかどうか、次の時代を切り拓く一つの試金石となっています。何故なら、命に直結する医療制度の崩壊は、社会そのものの崩壊を意味するからです。

ニュージーランドでは、1984年以降医療費が抑制され、今では地方の公立病院はほとんど閉鎖され、地域医療は完膚なきまでに叩きのめされました。日本でも現在まで連なる小泉政権による医療費抑制により、公立病院が閉鎖されつつあるのです。これは一時的なものではありません。この根底には日本とニュージーランドに共通する医療費抑制モデルがあり、ニュージーランドの危機は、日本の未来の姿であるといえるのです。

こうした危機的な状況を乗り越えていくには、明治維新における薩長同盟のように、これまで反目しあってきた者同士が大義のために互いに協力し合うことが重要です。医師と患者、行政と市民、大学病院と開業医など、既存の常識や枠組みにとらわれずに、この難題に協働して取り組むことが求められており、それにより医療における「新たなビジョン」を創り出していく必要があります。いつまでも古い世界観に固執し、バラバラで、権益に縛られた自分本位な世界観に囚われているのでは解決は難しいでしょう。

私たちは今まさに「新しい世界」が生まれ出る歴史的転換期に生きています。だからこそ、社会の根幹のひとつといえる医療制度の改革に全力で立ち向かっていかなければなりません。そこで、あらゆる分野の人びとと連携することで「医療志民の会」を発足し、人びとが健康に恵まれ、安心して暮らせる医療制度の構築を目指して、社会に情報発信および政策提言していく“開かれた”「場」をつくり出します。この「場」から、時代を変革していくエネルギーが創発され、可能性へと開かれた未来が生み出されていくことを確信します。

2. 基本方針

- 1) **国民と医療提供者の協働**: 政府の持つ情報の開示を求め、医療政策の検証を可能にするとともに、政策決定過程の透明化と合理化を図る。無駄を排除し、必要な資源を投入すると同時に、診療報酬体系と国民負担のあり方を見直す。
- 2) **コミュニティと医療提供者の協働**: 地域ごとの特性を考慮した医療提供体制を住民と共に構築する(救急、産科救急、小児医療)。
- 3) **患者と医療提供者の協働**: 患者と医療提供者で情報を共有し、ともに疾病に立ち向かう。徹底した患者と医療者の相互理解支援。
- 4) **医療提供者間の協働**: 病院内でのチーム医療。地域での連携と協働。医療機関の役割分担。医療機関間の相互協働による患者さんのケア
- 5) **国際社会との協働**: 新薬医療機器の開発の円滑化。外国の患者の受け入れ。外国での医師教育への協力。
- 6) **時代との協働**: 静的な完成型を目指さず、医療内容や提供体制を時代にふさわしいものに常に変革していく。

参考資料2: 発起人一覧

共同代表

大谷貴子(元白血病患者)

佐藤章(福島県立医大産科婦人科・名誉教授)

発起人 50 音順(敬称略)

秋山美紀(慶應義塾大学総合政策学部専任講師)、足立智和(丹波新聞記者)、阿真京子(『知ろう! 小児医療守ろう! 子ども達』の会代表)、網塚貴介(青森県立中央病院総合周産期母子医療センター新生児集中治療管理部部長)、新垣義孝(沖縄県立中部病院泌尿器科部長)、有賀徹(昭和大学救急医学教授)、安藤潔(荒川医院院長)、石井廣重(石井第一産科婦人科クリニック院長)、石川麻倫(北海道大学医学部)、石丸聡美(看護師)、伊関友伸(城西大学経営学部マネジメント総合学科准教授)、市川賢司(再生不良性貧血の患者と家族の会再生つばさの会)、稲用絢(筑波大学医学部)、井上範江(佐賀大学医学部看護学科教授)、岩瀬博太郎(千葉大学大学院医学研究院教授)、海野信也(北里大学産婦人科教授)、大磯義一郎(国立がんセンター中央病院)、大澤幸生(東京大学大学院工学系研究科准教授)、大谷貴子(元白血病患者)、大塚勇二(みんなの歯科ネットワーク副理事長)、小川彰(岩手医科大学学長)、尾崎章彦(東京大学医学部)、於曾能正博(おその整形外科院長、東京保険医協会理事)、小野俊介(東京大学薬学部准教授)、小原まみ子(亀田総合病院腎臓高血圧内科部長)、影山幸雄(埼玉県立がんセンター)、加藤秀樹(構想日本代表)、上昌広(東京大学医科研先端医療社会コミュニケーションシステム特任准教授)、亀田省吾(亀田メディカルセンター亀田クリニック院長)、亀田信介(亀田総合病院院長)、亀田隆明(鉄蕉会理事長)、嘉山孝正(山形大学医学部長)、粥川裕平(愛知県保険医協会勤務医部会副代表)、河北博文(河北総合病院理事長)、川越正平(あおぞら診療所所長)、木田博隆(三重大学大学院医学系研究科地域職域保健医療支援センター助教)、木戸寛孝(世界連邦 21 世紀フォーラム代表)、木村秀樹(呼吸器外科医、千葉県がんセンター医療局長)、京極淳(東京大学法学部)、日下部恵一郎(一橋大学大学院社会学研究科)、久住英二(ナビタスクリニック立川院長)、久保千春(九州大学病院病院長)、熊谷章(手稲溪仁会病院副院長)、熊坂義裕(開業医、宮古市長)、熊本美子(看護師)、倉智博久(山形大学医学部産科婦人科教授)、黒岩祐治(フジテレビ報道局 解説委員)、黒川衛(真珠園療養所内科医師)、黒木春郎(医療法人嗣業の会理事長 外房こどもクリニック)、桑江千鶴子(都立府中病院産婦人科部長)、小池宙(I-cube~夢の病院プロジェクト~代表)、神津仁(神津内科クリニック院長)、小林一彦(JR 東京総合病院血液内科医)、小林文雄(NTT 東日本関東病院血液内科患者会)、小松恒彦(帝京大学ちば総合医療センター血液内科准教授)、小松秀樹(虎の門泌尿器科部長)、阪井裕一(国立成育医療センター手術集中治療部部長)、笹岡真弓(文京学院大学大学院人間学研究科教授、日本医療社会事業協会会長)、佐藤一樹(綾瀬循環器病院心臓血管外科医師)、佐藤章(福島県立医大産科婦人科・名誉教授)、佐藤佳代子(学校法人後藤学園附属リンパ浮腫研究所所長)、佐藤元基(東京大学医学部)、佐藤ゆかり(さくら)、澤田石順(鶴巻温泉病院医師)、塩見健三(がんまんクラブ代表)、志治美世子(作家)、篠原信雄(北海道大学大学院医学研究科腎泌尿器外科准教授)、篠田将(東京大学医学部)、嶋田裕記(東京大学医学部)、上甲恭子(日本骨髄腫患者の会副代表)、鈴木信行(日本二分脊椎症協会前会長)、角南義文(医療法人竜操整形竜操整形外科病院院長、理事長)、副島秀久(済生会熊本病院副院長)、谷岡芳人(市立大村市民病院副院長)、田口空一郎(構想日本政策スタッフ)、高田佳輝(広島市民病院小児外科主任部長)、高野英行(千葉県がんセンター画像診断部部長)、高橋悟(日本大学医学部泌尿器科学系主任教授)、高原晶(諫早医師会会長)、竹内麻里子(東京大学医学部)、田中啓一(嵯峨嵐山山中クリニック院長)、丹生裕子(柏原病院の小児科を守る会代表)、辻恵美子(ぎんなん会代表)、土屋了介(国立がんセンター中央病院院長)、寺野彰(獨協学園理事長)、友池仁暢(国立循環器病センター病院院長)、豊島勝昭(神奈川県立こども医療センター周産期医療部新生児科医長)、内藤真弓(ファイナンシャルプランナー日本の医療を守る市民の会)、永井雅己(徳島県立中央病院院長)、長尾和宏(長尾クリニック院長)、中澤堅次(済生会宇都宮病院院長)、中島利博(キルギス共和国国家顧問医師)、中田善規(帝京大学麻酔科教授)、中西成元(虎の門病院医療安全アドバイザーシミュレーションラボセンター長)、中西淑美(大阪大学コミュニケーションデザインセンター講師)、中西洋一(九州大学大学院医学研究院教授)、中原のり子(小児科医師中原利郎先生の過労死認定を支援する会)、中村利仁(北海道大学医療システム学助教)、中村祐輔(東京大学医科学研究所附属ヒトゲノム解析センター教授)、中山陽子(沼津市立病院内患者会オリーブの会代表)、成澤俊輔(患者塾代表)、西田幸二(東北大学眼科教授)、野村麻実(刈谷豊田総合病院産婦人科)、蓮井浩美(香川がん患者おしゃべり会世話人)、濱木珠恵(医師都立墨東病院血液内科医長)、原澤茂(済生会川口総合病院院長)、日高進(日本心臓ペースメーカー友の会副会長)、日吉和彦((財)化学技術戦略推進機構戦略推進部部長)、平田創一郎(東京歯科大学社会歯科学研究室)、平野一恵(CFS患者有志の会)、広井良典(千葉大学法経学部教授)、福田衣里子(元薬害肝炎訴訟九州大表)、福原麻希(医療ジャーナリスト)、藤末洋(藤末医院院長)、古田秘馬(プロジェクトデザイナー)、邊見公雄(赤穂市民病院)、堀明子(帝京大学医療情報システム研究センター・帝京大学医学部附属病院腫瘍内科講師)、堀田知光(国立病院機構名古屋医療センター)、堀江重郎(帝京大学泌尿器科教授)、本田宏(済生会栗橋病院副院長)、増山茂(了徳寺大学学長)、松原要一(鶴岡市立荘内病院院長)、松村理司(洛和会音羽病院院長)、満岡渉(満岡内科循環器科院長)、南川克博(東京大学法学部)、三宅敬二郎(在宅診療敬二郎クリニック院長)、宮野悟(東京大学医科研ヒトゲノム解析センター教授)、武藤徹一郎(癌研有明病院メディカルディレクター名誉院長)、森澤雄司(自治医大感染症管理学准教授)、森田茂穂(帝京大学麻酔科教授)、森田知宏(東京大学医学部)、安岡ゆり子(高知がん患者会一喜会理事)、山口拓洋(東京大学臨床試験データ管理学特任准教授)、山田真(山田歯科医院)、山本勝雄(患者会ヒマラヤスギ)、山本新吾(兵庫医科大学泌尿器科)、湯地晃一郎(東京大学医科学研究所附属病院内科助教)、吉澤孝子(こぶしの会)、竜崇正(千葉県がんセンターセンター長)、渡邊清高(国立がんセンターがん対策情報センターがん情報統計部がん医療情報サービス室長)、渡辺賢治(慶応大学漢方医学センター准教授)、和田ちひろ(いいなステーション)、和田真由美(血液疾患の患者会「萌の会」代表)、和田仁孝(早稲田大学大学院法務研究科教授)

以上